

北播磨県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

北播磨地域は、豊かな自然、多彩な農畜産物、伝統ある産業、歴史・文化に恵まれ、高速道路の結節点という交通の要衝を形成するなど高いポテンシャルを有している。

これらの地域特性を最大限に活用し、①2025 大阪・関西万博を見据えた北播磨の魅力創出、②北播磨の強みを活かした「農」と「食」の創出、③北播磨を支える人や交流基盤づくり、④誰もが安全安心に暮らせる北播磨の実現、を柱に施策を展開し、新型コロナウイルスの影響などにより地域を覆う閉塞感を打開し、活力と元気に満ちた北播磨づくりを推進する。

【目標】

KPI	目標
農産物直売所の販売額	5 億円増加／5 年間
新規就農者数	累計 150 人／5 年間
観光客入込数	15,500 千人
若年層(20～39 歳)の転出入数	均衡
地場産業の生産額	960 億円
住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	67%
お住まいの地域には、自慢したい地域の宝(風景や産物、文化など)があると思う人の割合	47%

II 取組の方向性

(地域の元気づくり)

北播磨地域は、日本一の酒米「山田錦」をはじめ、「黒田庄和牛」、「播州百日どり」、「ふるさと巻き寿司」などの豊かな「農」と「食」、全国疏水百選に選ばれている「東条川疏水」、日本遺産に認定された播州清水寺や一乗寺などの歴史文化財、播州織や三木金物などの地場産業、といった様々な地域資源を有している。これら地域資源は、令和7年度に開催される大阪・関西万博に向け、県を挙げて取組を進める「ひょうごフィールドパビリオン」に適しており、資源のさらなる磨きあげ、テーマ等に沿ったコンテンツの組み合わせなど、北播磨の魅力を地域内外に発信し、体験してもらうことにより、交流人口・関係人口の拡大を図り、地域の元気づくりにつなげる。

- 1 大阪・関西万博に向け、北播磨の豊かで多彩な「農」と「食」や地場産業などを「ひょうごフィールドパビリオン」として磨き上げ、地域の魅力を体験するツアーの実施等を通じて、地域内外の参加者に北播磨の魅力を発信し、北播磨への理解を深め、交流人口や関係人口の拡大を図る。
- 2 北播磨の「農」と「食」の品質向上や新品種等の導入など高付加価値化に取り組むとともに、山田錦の日本農業遺産認定に向けた取組等その魅力の効果的な発信などを通じ、ブランド力を向上させ、担い手や産地の経営の安定化を図る。

(人口対策)

北播磨地域の人口は、平成12(2000)年の298,390人をピークに減少に転じ、人口減少に拍車がかかっている。一方で、コロナ禍による地方回帰の流れを受け、地域の特性を活かし、定住人口の減少抑制に向け、若者の雇用の創出や移住の促進を図り、防災・子育て・医療・福祉など安全安心に暮らすことができるまちづくりを進め、地域の元気づくりを進めるなかで取り組む北播磨の未来を担う人材育成を通じて、シビックプライドの醸成を図る。

- 1 若者による地域における創造的な活動の支援やふるさと情報の発信等により、ふるさと意識の醸成を図る。また、地場産業や地域ビジネスなどの地域産業を活性化するとともに、SNS等を活用した情報発信や相談会等により若者の北播磨企業への定着や都市部の移住希望者の北播磨地域への移住を促進する。これらを通じて地域に誇りを持った「北播磨」を担う人材の育成、定着を進めるとともに、JR加古川線の利用促進や社総合庁舎周辺地域の賑わい創出など交流基盤づくりを進める。
- 2 豊かな自然、歴史・文化等に恵まれた環境のなか、住民、事業者、行政が力を合わせ、誰もがいきいきと暮らせる「北播磨」を創出するとともに、災害に対する防災意識の高揚や啓発、地域ぐるみの子育てやフードドライブの実施、認知症カフェの立ち上げ支援によるまちづくり等、地域住民が安全安心に暮らせる「北播磨」を創出する。

Ⅲ 具体的な取組(主なもの)

(地域の元気づくり)

1 2025 大阪・関西万博を見据えた北播磨の魅力創出

- ・ 地域づくり活動応援事業に万博関連枠を設け、万博に向け、新たな地域資源の発掘やイベントの開催、情報発信などに取り組む団体・若者グループ等を支援
- ・ 北播磨の「農」と「食」と、価値ある地場産業をはじめとする地域ならではのものづくり体験や、東条川疏水、インフラ建設現場の見学等を組み合わせた、北播磨の魅力体験するツアーの実施
- ・ ARを活用したスタンプラリーやVR(仮想空間)での北播磨の魅力疑似体験等最新デジタル技術を駆使した新たな誘客手法の実施
- ・ 大学生等の運営による北播磨をPRする斬新なデザインのマテリアル(広報用資材)の公募、地域住民による選挙で選定されたマテリアルを活用した北播磨の効果的なPRを実施
- ・ 「農」と「食」、国宝や日本遺産などの多彩な地域資源を有機的につなぐサイクリングルートとフットパスによる都市と農村の交流拡大

2 北播磨の強みを活かした「農」と「食」の創出

- ・ 北播磨「農」と「食」の祭典等北播磨産の農畜産物や農産加工品を広くPRするイベントの実施や、市町等の地産地消イベントを応援
- ・ 山田錦のブランド力強化と安定生産のため、日本農業遺産等への認定に向けた取組や山田錦語り部による生産者等への講習会の開催、栽培省力化技術の導入など担い手の経営基盤を強化
- ・ 兵庫県オリジナル新品種の枝豆「ひかり姫」、いちご「あまクイーン」「紅クイーン」の導入、生産拡大等を支援
- ・ ぶどうの鳥獣対策・労力軽減等、新技術導入による生産改善
- ・ 黒田庄和牛や播州百日どり等の飼育技術の改善指導や生産振興
- ・ 地域の農畜産物を活用した加工品開発や、新たな山田錦の加工品やレシピ、パッケージデザインなどの新商品開発等による新たな魅力づくり

【基本目標】

- ・ 農産物直売所の販売額を5年間で5億円増加させる（H30(2018)年：31.9億円）
- ・ 新規就農者数を5年間で150人(累計)にする（H30(2018)年：19人）
- ・ 令和6(2024)年度における観光客入込数を15,500千人にする。
（H30(2018)年：14,045千人）

（人口対策）

1 北播磨を支える人や交流基盤づくり

- ・ 高校生による地産地消活動や特産品の情報発信、世代間交流事業など高校生が主体となった地域づくりの促進
- ・ 北播磨の地場産業や地域ビジネスの販路拡大、イベント、PR等の取組みや、観光資源としての活用による地域産業の活性化
- ・ オンラインによる大学と北播磨地域企業との就職情報交換会の開催、新たに制作するUJIターン者の体験談動画等を活用した若者をターゲットにした情報発信
- ・ 高校生のための地元企業展示・説明会の実施
- ・ 都市部（大阪・東京圏等）の移住希望者への移住相談の実施、ホームページの充実、先輩移住者の体験談動画制作など情報発信力の強化
- ・ 県立播磨中央公園サイクリングコース（令和5年供用開始）への自転車競技大会誘致など利用促進
- ・ 社総合庁舎・加東バスターミナル周辺の施設を活かした親水空間の創出による、地域活性化構想の策定、推進
- ・ 地域資源を組み合わせたイベント実施等による、JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道の利用促進及び沿線活性化
- ・ 地域住民等で構成する「わが町考え隊(仮称)」による取組や利用促進キャンペーンなどを通じたJR加古川線の維持・利用促進

2 誰もが安全安心に暮らせる北播磨の実現

- ・ 自主防災組織の強化及び地域防災力の向上を図るための、避難所運営にかかる体験型研修の実施
- ・ 地域に居住する外国人に対する行政情報の発信や地域住民との交流の活性化のため日本人サポーターの育成
- ・ 県民の参画と協働のもと、交通事故のない地域づくりを目指した「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の展開
- ・ 子育て家庭の声かけ運動等を行う「子育て応援運動」の支援や、地域ぐるみで子育て家庭を支援する「子育て応援ネット」の推進
- ・ 認知症カフェの立ち上げや認知症に関する専門職研修を支援し、地域社会全体で認知症の人を支える基盤整備及び人材育成
- ・ 市町と連携したフードドライブの実施

【基本目標】

- ・ 令和6(2024)年度における若年層(20～39歳)の転出入数を均衡させる。
（H30(2018)年：▲487人）
- ・ 令和6(2024)年度における地場産業の生産額を960億円に維持する。（H30(2018)年：957億円）
- ・ 令和6(2024)年度における県民意識調査「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」を67%にする。（H30(2018)年：60.7%）
- ・ 令和6(2024)年度における県民意識調査「お住まいの地域には、自慢したい地域の宝（風景や産物、文化など）があると思う人の割合」を47%にする。（H30(2018)年：42.7%）